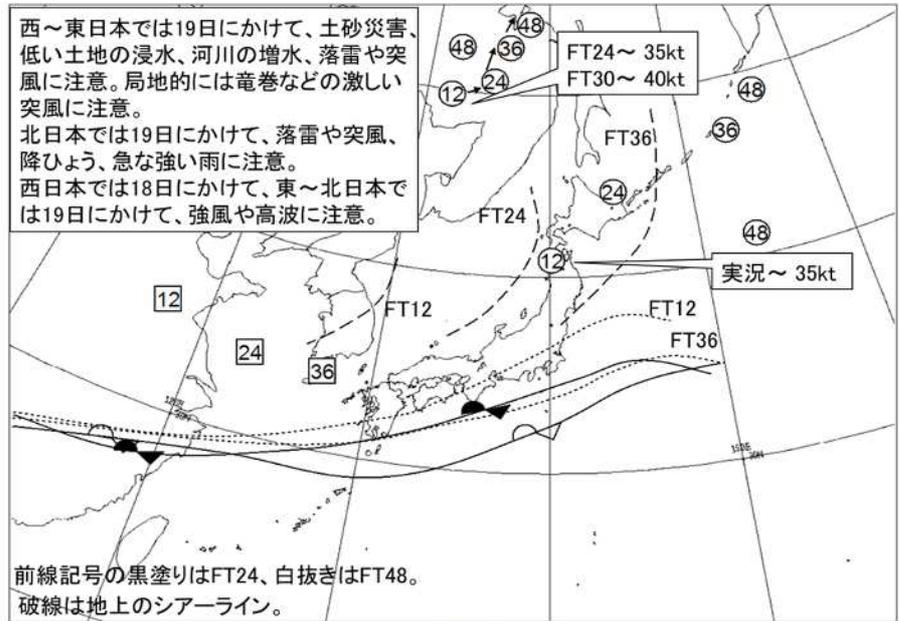


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa5700m付近のトラフに対応する前線を伴った低気圧が日本海にあって、北東進。前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、西～北日本では雷を検知し、1時間に20～30mmの強い雨や激しい雨を解析している所がある。
- ② ①の前線や低気圧と日本のはるか東の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、西～北日本ではやや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は17日夜までに不明瞭になるが、この低気圧からのびる前線の閉塞点上の日本海に新たに低気圧が発生し、17日夜には北日本に、18日朝にはオホーツク海に進む。また、前線が17日夜には西～東日本にのびゆっくり南下する。前線や低気圧に向かって850hPa θ e336K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。西～東日本では17日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。北日本では17日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ② 2項①の前線は、西～東日本を南下した後19日にかけて、東シナ海～四国の南～伊豆諸島付近に停滞する。奄美地方・九州南部・伊豆諸島では前線に向かって下層暖湿気の流入が続き、雷を伴った激しい雨が降り大雨となり、総降水量が多くなる所がある。奄美地方・九州南部・伊豆諸島では19日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。
- ③ 18日は、地上のシアーラインが東～北日本を通過する。また、19日は北日本の上空500hPaに-21℃以下の寒気が流入する。シアーラインや上空寒気に日射による昇温の影響が加わり、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った強い雨の降る所がある。東日本では18日は、北日本では18～19日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 2項①～③の前線や低気圧、シアーラインの周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。西日本では18日にかけて、東～北日本では19日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：九州南部120、伊豆諸島100mm。
- ② 波浪(明日まで)：北海道・東北・関東・伊豆諸島・東海・近畿・中国3m。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。